

編集後記

機関紙「医療経済研究」第14号が発刊の運びとなった。ご協力を頂いた編集委員、レフェリーほか関係者の皆様に、改めて御礼申し上げたい。今回、編集委員会の最終決定により採用となった論文は、次の4本である。

「外来患者による大病院選択の規定要因—「国民生活基礎調査」個表データを用いた実証分析—」（塚原康博氏）は、個表データをもとに大病院選択の規定要因を様々な角度から分析した論文である。

次に「Radiological equipment and staffs distribution in Hokkaido, Japan - Lorenz curve and Gini coefficient analyses -」（小笠原 克彦氏他）は、北海道における放射線診療の地域的な不均一性を評価するために、ローレンツ曲線とGini係数を用いて分析を行った論文である。

「ニュージーランドにおける医療制度改革とニュー・パブリック・マネジメント」（藤澤由和氏）は、1990年代の医療制度改革とニュー・パブリック・マネジメントの関連性および医療制度改革の成果と課題を明らかにすることを通じてニュージーランドにおける改革を分析した論文である。

最後に、「The Use of Pharmacoeconomics in the US Healthcare System」（Gregg L.Mayer, Ph.D.）は、米国における薬剤経済学の利用方法を紹介するとともに、日本における示唆を提案した論文である。

いずれも編集委員会およびレフェリーによる厳しい審査をクリアーした論文であるだけに、実証的であり、政策研究論文として高く評価できる労作である。

編集事務局としては、本機関紙が医療政策議論の参考文献として役立ち、医療サービスの更なる向上と医療政策の発展に寄与できるよう願っている。今後とも各方面のご支援、ご指導を切にお願い申し上げたい。

（編集事務局代表・医療経済研究機構 専務理事 岡部 陽二）